

# 中学生、高校生、大学生と若手職員がクロストーク！

## 「こどもまんなか都城」応援シンポジウム

市内の中学生・高校生・大学生・社会人が集まって、それぞれの視点で「子育ての未来」について語る「こどもまんなか都城」応援シンポジウムにこども家庭庁の若手職員が参加しました。

場所は、宮崎県都城市にある南九州大学都城キャンパス。100名を超える参加者が見つめる中



南九大生による開会挨拶と、大学生が高校生との関わりをつくる「ナナメプロジェクト」の説明でシンポジウムがスタート。続いて各グループから発表が行われました。

人間発達学部学生からは「親子の居場所づくり」について「複数の居場所とつながることのできる登録カードをつくってはどうか」という提案、妻ヶ丘中学生徒会のみなさんからは今日からできる「家族や地域をつなぐリサイクル活動」、都城商業高校・共創ウェルビーイング部は揃いのユニフォーム姿で登場し「居たい、行きたい、やってみたいをつくる『のくにプロジェクト』」の活動を紹介しました。また、都城西高校からは「こどもの虐待を減らすには」をテーマにアンガーマネジメントの必要性などを発表。240件の保護者アンケートから「育児の負担軽減」について高校生の目線で考察した都城泉ヶ丘高校、そして南九大子ども教育学科の学生からは「子育て支援アプリ」の提案、と各グループともにわかりやすく、大変充実した内容の発表となりました。

続いて、各グループの代表者とこども家庭庁の若手職員もまじってのクロストークです。

南九大生がファシリテーターをつとめ、みんな最初は緊張しつつも、「こどもにとって居場所は、第1でも第3でも決められたものでなく『ナンバーレスプレイス』ととらえたい」「高校生や大学生は、こどもに一番近いオトナといもいえる。実習で感じたが、こどもは学生とは話しやすいので相談にのりやすい」「大人が持っている子育て支援のナレッジを高校生に伝えてもらって、高校生が知っていくことも必要なのでは」といった、こども若者ならではの視点から意見が活発に交わされました。



最後にファシリテーターが「都城の中高生がこういう活動をしていることを大学生の自分は知らなかった。これから各グループがそれぞれ連携して自分たちや都城の未来を考えていくことができるのではないかとクロストークを締めくくりました。

都城市のこども部幹部からは「都城の将来を担う中高大学生からの大変すばらしい発表と意見をいただき、正直感動している。みなさんの声をいろいろな形で生かしていけるよう市として国とも連携してがんばっていきたい」というコメントがあり、会場は発表者、登壇者たちへの大きな拍手に包まれました。



グループ全員でななめプロジェクトのポーズ

イベント終了後、参加者や各グループで感想を述べあったり、連絡先を交換したりする姿がとても印象的でした。

【概要】名称：「南九州大学人間発達学部子ども教育学科“ななめプロジェクト”プログラム 都城市連携事業 市民講座「こどもまんなか都城」応援シンポジウム～生徒・学生が語り合う“都城の子育てとその未来”～

場所：南九州大学 都城キャンパス 2012 教室/ 日程：令和5年12月2日(土)

内容：「都城の中高大学生とのパネルディスカッション等

主催：南九州大学/共催：都城市/後援：こども家庭庁